



輸出品目別レポート（その他の野菜『キャベツ、乾しいたけ』）

〔キャベツ〕

■品目説明

秋に播種し、春から初夏にかけて収穫するものは「春キャベツ」と呼ばれる。「春キャベツ」は、柔らかく、甘みがあるのが特徴である。一方、夏に播種し、冬に収穫するものを「冬キャベツ」と呼ぶ。「冬キャベツ」は、葉がしっかりとしており、加熱しても煮崩れしにくいため、ロールキャベツなどの加熱調理に適している（[東北農政局「キャベツ」](#)）。

[農林水産省による作物統計](#)（2025年4月30日発表）によれば、2024年の春キャベツ収穫量は前年比4%減の33万8,900トンとなり、作付面積は8,590haで、前年産に比べ180ha(2%)減少した。夏秋キャベツ収穫量は前年比3%減の46万6,400トンとなり、作付面積は9,670haで、前年産に比べ530ha(5%)減少となった。

そのほか、関連業界団体として、[日本野菜協会](#)、[全国中央市場青果卸売協会](#)などがある。

■貿易概況

2023年の日本のキャベツ（芽キャベツを除く）の輸出動向をみると、金額ベースでは前年比24.1%減の220万ドル、数量ベースでは同21.6%減の1,611トンであった。主要輸出国・地域の動向をみると、1位（金額ベース）は香港で、金額が前年比34.3%減の143万ドル、数量が同29.0%減の1,151トン、2位はシンガポールで、金額が同5.7%増の70万ドル、数量は同4.0%増の393トンであった。3位は台湾で、金額が同45.6%減の2万ドル、数量は同34.6%減の34トンだった。上位2カ国でシェア（金額ベース）は97.1%を占める。

▼表1：日本のキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	1,921,339	1,267	2,189,267	1,621	1,438,821	1,151	△ 34.3	△ 29.0
シンガポール	868,560	431	664,577	378	702,579	393	5.7	4.0
台湾	180,577	233	38,639	52	21,003	34	△ 45.6	△ 34.6
マレーシア	7,014	2	—	—	16,564	13	—	—
カナダ	—	—	—	—	12,076	17	—	—
全世界	2,988,895	1,938	2,903,784	2,056	2,203,790	1,611	△ 24.1	△ 21.6

注：対象はHSコード 0704.90

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●香港

2023年のキャベツ輸入額は前年比101.7%増の869万ドル、数量ベースでは同41.5%増



の8,552トンと、2022年の大幅減の反動から増加した。主要輸入相手国別にみると、1位の中国が前年比322.5%増の702万ドル、数量ベースで68.0%増の7,634トン、2位の日本が156万ドル（前年比23.6%減）、数量ベースでは823トン（同17.4%減）であった。香港では、輸入した生鮮野菜をサラダとして食べる習慣はあるものの、キャベツを生で食べる習慣はほとんどない。日系フランチャイズのとんかつ料理店など一部を除き、炒めるか煮るかして食べるのが一般的である。このため業務用を中心に中国産が主に使用されているとみられる。日本産は大玉で安心・安全であると捉えられている。

▼表2：香港のキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	123,829,701	322,049	1,663,691	4,545	7,028,662	7,634	322.5	68.0
日本	1,814,530	924	2,050,550	996	1,567,155	823	△ 23.6	△ 17.4
韓国	124,757	118	107,059	71	60,932	53	△ 43.1	△ 25.4
台湾	377,976	269	412,692	402	29,493	39	△ 92.9	△ 90.3
オランダ	3,774	1	2,268	1	5,375	1	137.0	0.0
全世界	126,155,784	323,367	4,309,710	6,042	8,693,470	8,552	101.7	41.5

注：対象はHSコード 0704.90-10 Commodity: 07049010, Round Cabbage, Fresh Or Chilled

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

●シンガポール

2023年の輸入額は前年比8.7%減の3,842万ドル、同数量は4.7%増の63,665トンであった。国別輸入をみると、1位は中国で前年比19.8%減の1,969万ドル、同数量は0.5%増の37,320トンであった。日本は5位で前年比0.2%減の100万ドル、同数量は472トンであった。

▼表3：シンガポールのキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	27,572,563	37,794	24,540,164	37,131	19,692,932	37,320	△ 19.8	0.5
マレーシア	9,015,661	13,758	9,984,377	14,124	12,186,616	18,673	22.1	32.2
インドネシア	2,765,038	7,155	3,083,202	7,613	2,231,213	5,413	△ 27.6	△ 28.9
タイ	2,135,952	863	1,826,712	737	1,589,518	673	△ 13.0	△ 8.7
日本	1,037,960	509	1,005,139	489	1,003,414	472	△ 0.2	△ 3.5
全世界	45,087,395	63,041	42,092,618	60,808	38,426,040	63,665	△ 8.7	4.7

注：対象はHSコード 0704.90

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

●台湾

台湾のキャベツ輸入は、主に5月から徐々に増えはじめる。台湾では夏季野菜の栽培が主であり、また夏季は台風や豪雨が収穫量に影響するため、輸入野菜を市場に流通させることで需給調整を行っていると考えられる。詳細は、台湾PFカントリーレポート「[台湾への農林水産物・食品の輸出に関する品目別レポート（野菜類）](#)」（2025年3月）参照。



●そのほか

- ・香港 PF カントリーレポート「[香港への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート（青果物）](#)」（2024年11月）
- ・香港 PF カントリーレポート「[香港におけるギフト食品市場～月餅・菓子・花き・青果物～](#)」（2022年11月）
- ・シンガポール PF カントリーレポート「[全体レポート](#)」（2025年3月）

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、青果物の主要都市における市場価格をまとめている。青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドをまとめている。

〔乾しいたけ〕

■品目説明

乾しいたけは、森林内等においてコナラ・クヌギ等を用いた原木栽培により主に露地栽培で生産され、気温、降雨等の気象条件によって生産量が大きく左右される。

[林野庁『特用林産物生産統計調査』](#)（農林水産省）によれば、2023年における乾しいたけ生産量は1,816トンで前年比10.8%減となった。うち原木栽培は1,550トンであり、残り266トンが菌床栽培である。2023年生産量における主な生産地は、大分県（653.8トン）、宮崎県（310.1トン）、熊本県（186.4トン）、愛媛県（100.1トン）などとなっている。

そのほか、関連業界団体として、[日本特用林産振興会](#)、[日本きのこセンター](#)、[菌興椎茸共同組合](#)などがある。

■貿易概況

2023年の日本の乾しいたけ輸出動向をみると、金額ベースでは前年比12.3%減の128万ドル、数量ベースでは同0.5%減の35トンとなった。主な輸出相手国・地域は、首位が香港で前年比9.7%減の55万ドル、数量ベースでは1.9%増の10トン、2位は米国で前年比14.4%減の42万ドル、3位は台湾で同0.8%増の18万ドルとなった。この上位3カ国・地域による2023年シェア（金額ベース）は、9割を占めている。

[日本特用林産振興会](#)「国産特用林産物の輸出促進に向けた情報収集・連携強化報告書」（2024年3月）によると、以下のようにまとめている。

- ・近年ではサウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦などの中東諸国、欧州諸国等への輸出も額は多くないものの拡大しており、輸出先国の多角化がみられる。これは、これまでの中華料理や和食での利用だけでなく、ヴィーガンやハラル等の食生活の多様化による新規需要の拡大によるものではないかと考えられる。



・香港と台湾では、高級品については日本産原木乾しいたけへの強いニーズが存在しているが、輸出事業者は需要に見合う量を集めることができていない状況。一方、中級品以下の規格については価格の安い中国産と競合。

・個々の生産者や事業者が各々手探り輸出に取り組んでいる状況。

▼表4：日本の乾しいたけ輸出

(単位：ドル、キログラム、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	884,460	14,400	611,387	10,564	552,099	10,769	△ 9.7	1.9
米国	916,811	17,959	495,532	18,849	423,934	19,886	△ 14.4	5.5
台湾	295,553	4,527	185,864	3,303	187,274	2,729	0.8	△ 17.4
シンガポール	36,435	521	44,579	701	34,029	532	△ 23.7	△ 24.1
オランダ	60,208	965	42,016	750	17,165	330	△ 59.1	△ 56.0
全世界	2,329,104	40,569	1,463,153	36,072	1,283,573	35,901	△ 12.3	△ 0.5

注：対象はHSコード 0712.39.100 0712.34.0000

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●香港

2023年の香港の乾しいたけ輸入額は、前年比30.3%増の7,964万ドル、数量ベースでは同10.9%減の1万91トンとなった。主要輸入相手国の1位は、中国で前年比32.7%増の7,533万ドルでシェアは90.8%だった。2位は日本で前年比33.6%増の89万ドル、3位はオランダで同20.6%減の53万ドルであった。

主に中国産の乾燥きのこ類は、業務用として販売されている。中国産乾しいたけに比べ日本産乾しいたけは高額であるが、味、香りとともに秀でており、贈答用としての日本産乾しいたけの人気は高い。中秋節・旧正月の贈答用を選ぶ際に、贈答相手への面子を重んじて日本産を購入する香港の消費者による一定の需要は見込まれるだろう。

▼表5：香港の乾しいたけ輸入

(単位：ドル、キログラム、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	109,552,463	23,442,377	56,786,063	11,646,701	75,336,955	10,420,712	32.7	△ 10.5
日本	844,283	13,848	673,570	12,099	899,708	18,031	33.6	49.0
オランダ	686,681	360,653	669,178	325,544	531,246	224,323	△ 20.6	△ 31.1
韓国	376,692	8,932	443,705	11,616	342,809	9,190	△ 22.7	△ 20.9
ロシア	—	—	—	—	327,293	80,438	—	—
全世界	116,352,462	24,378,594	61,121,964	12,251,646	79,646,348	10,915,345	30.3	△ 10.9

注：対象はHSコード 0712.39 0712.34

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

●米国

2023年の米国の乾しいたけ輸入額は、前年比6.8%減の2,366万ドル、数量ベースでは同



21.9%増の3,536トンとなった。主要相手国別にみると、1位は中国で前年比8.7%減の1,225万ドル、2位はフランスで同19.0%減の507万ドル、3位がポーランドで同78.0%増の94万ドル、日本は9位で同34.6%減の36万ドルとなった。

▼表6：米国の乾しいたけ輸入

(単位：ドル、キログラム、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	12,861,877	2,099,686	13,424,858	2,423,557	12,257,402	3,057,850	△ 8.7	26.2
フランス	4,144,157	143,763	6,258,788	213,191	5,072,220	162,776	△ 19.0	△ 23.6
ポーランド	398,655	7,892	530,023	23,353	943,533	37,176	78.0	59.2
イタリア	867,076	23,278	1,122,612	30,700	913,437	22,323	△ 18.6	△ 27.3
Serbia	823,454	24,692	535,332	15,479	555,255	17,322	3.7	11.9
日本（9位）	880,462	20,207	556,413	28,455	363,744	17,813	△ 34.6	△ 37.4
全世界	23,581,510	2,538,705	25,404,428	2,901,912	23,668,307	3,536,262	△ 6.8	21.9

注：対象はHSコード 0712.39 0712.34

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

● そのほか

- ・台湾PFカントリーレポート「台湾への農林水産物・食品の輸出に関する品目別レポート（野菜類）」（2025年3月）
- ・香港PFカントリーレポート「香港への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート（青果物）」（2024年11月）
- ・マドリードで国際料理学会開催、食の発信地で日本食を訴求（日本、スペイン）| ビジネス短信 一杰トロの海外ニュース - ジェトロ（2025年2月）
- ・日本産食品試食会を開催、抹茶、干し椎茸、米菓、コメ、日本酒に関心（日本、ブラジル）| ビジネス短信 一杰トロの海外ニュース - ジェトロ（2024年8月）
- ・日本特用林産振興会の調査事業報告書では、乾しいたけなどきのこ類などの台湾やベトナム、欧州などの市場調査レポートが公開されている。例えば、「国産特用林産物の輸出促進に向けた情報収集・連携強化報告書」（2025年3月）。

ジェトロ「現地市場価格調査」では、青果物の主要都市における市場価格をまとめている。青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、ジェトロのポータルにて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドをまとめている。



本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル
TEL: 03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。